令　和　2　年　度

事　業　報　告　書

社会福祉法人そてつ会

（法人本部）
（障害者支援施設　竹山苑）
（相談支援事業所　ともいき）
（放課後等デイサービス　カラット）
（特別養護老人ホーム　涼松）
（通所介護支援事業所岡村さん家）
（岡村さん家居宅介護支援事業所）

目　　次

○　法人本部　　・・・・・・・・・・・・・・・・　1

○　障害者支援施設竹山苑　　・・・・・・・・・　5

○　相談支援事業所ともいき　　・・・・・・・・　１０

○　放課後等デイサービス　カラット　　・・・　１４

○　特別養護老人ホーム涼松　　・・・・・・・・　１６

○　通所介護支援事業所　岡村さん家　　・・・　２０

○　岡村さん家　居宅介護支援事業所　　・・・　２３

法人本部

1　重点項目における評価と課題

（方針 1）　信頼される社会福祉法人を目指そう

地域や各種団体と関係が深まる社会福祉法人を目指します

【評価】

理学療法士を法人職員として採用したことで、竹山苑、涼松入居者の機能維持、改善が図られた。また、事務局職員を増員し、本部機能の強化を図った。

そよ風事業では、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から「地域食堂」を休止した。地元小学校との交流はオンラインで実施し、地域福祉の啓発・理解促進に努めた。指宿地域での新たな地域貢献活動は、新型コロナウイルスの影響で実施を見送った。

ホームページの刷新は計画どおり実施し、「お知らせコーナー」や「フェイスブック」により施設の情報や利用者の日々の暮らしなどをタイムリーに発信することができた。

【課題】

新型コロナウイルスの影響の中、手探り状態で地域貢献活動を実施した。学習支援や食事支援は大事な生活困窮者対策である。感染予防を優先し過ぎて活動を控えると、困る家庭が出てくることが予想される。感染予防と地域貢献活動の両立について検討・協議が必要である。

（方針2）　経営の安定化を図ろう

法人全体が安定的に運営されるよう、新しい人材の確保や育成を行います

【評価】

求人活動においては、学校が新型コロナウイルス感染防止から訪問を受け入れなかったため、郵送中心による法人紹介を行った。就職ガイダンスや企業紹介では、オンラインや動画撮影による求人活動に積極的に参加し、新しい時代へ向けた人材確保に挑戦した。

法人内においては、仕事と子育ての両立を応援するために、育児短時間勤務の対象年齢を引き上げるなど、育児・介護休業等に関する規則の改正を行なった。

【課題】

今後、一般企業においては、オンラインによる求人活動をさらに充実させてくると思わ

れる。求職者に対する動画やオンラインでの効果的なアピールの方法等について一般企業に後れをとらないよう研鑽を積む必要がある。

（方針3） 危機管理体制を確立しよう

そてつ会の地の利を活かしたBCPを整備します

【評価】

保健所職員と感染管理認定看護師による新型コロナ感染対策研修及び現場を確認しながらの指導を受け、法人全体として感染予防対策の向上を図った。

防災や感染対策の備品等の購入について、ともいき会議等をとおして情報交換を行いながら整備した。

【課題】

法人職員間の研修・交流については感染症対策に重点を置かざるを得ず、年に1回しか実施できなかった。今後は、オンライン等を活用した法人間研修の体制整備も必要と考える。

2　主な実績概要

（1）職員数（令和3年3月31日現在）

	正職員	非常勤	計
本部	2	1	3
竹山苑	27(4)	23	50(4)
ともいき	3(1)	0	3(1)
カラット	4(3)	1	5(3)
涼松	28	21	49
岡村さん家通所	4	7	11
岡村さん家居宅	1	0	1
合　計	65	53	118

※ カッコ内は兼務者、内数

（2）そてつ会における離職率

週３０時間以上の常勤及び非常勤職員（再雇用を含む）

竹山苑	ともいき	涼松	岡村さん家デイ	岡村さん家居宅
13.5%	0%	8.3%	0%	0%

※ 年度当初の職員数に対する離職者の割合（3月31日退職を含む）

（３）資格保有職員数（令和３年３月 31 日現在）

	介護福祉士	社会福祉士	ケアマネ	看護師	准看護師	管理栄養士	栄養士	保育士
本部	0	2	1	0	0	0	0	0
竹山苑	22(2)	4(3)	3(2)	2	1	0	1	1
ともいき	2	3(1)	3(1)	0	0	0	0	0
カラット	3(2)	2(2)	2(1)	0	0	0	0	1
涼松	17	0	1	2	6	1	0	0
岡村さん家デイ	5	0	1	0	3	0	0	0
岡村さん家居宅	1	1	1	0	0	0	0	0
合　計	48	9	10	4	10	1	1	2

※ カッコ内は兼務者、内数

（４）法人会議の実施

４回（6 月 1 日、9 月 23 日、11 月 20 日、3 月 5 日）

（５）代表者会議の実施

５回（5 月 7 日、7 月 17 日、11 月 3 日、1 月 26 日、2 月 25 日）

（６）役員会等の実施

ア　理事会　　４回（6 月 1 日、9 月 23 日、11 月 20 日、3 月 5 日）
イ　評議員会　　３回（6 月 18 日、12 月 4 日、3 月 20 日）
ウ　監事監査　　竹山苑・ともいき（5 月 18 日）
　　涼松・岡村さん家（5 月 19 日）

（７）研修

ア　職場内研修

12 月 3 日　県南薩地域振興局・感染症対策現地ﾗｳﾝﾄﾞ受入れ５名による指導
（竹山苑にて。涼松職員も参加）

イ　職場外研修

8 月 25 日　助成金及び事業主サービス説明会
10 月　8 日　BCP 研修（オンライン）
10 月 29 日　社会福祉法人経営者協議会　会計研修
12 月　8 日　企業紹介動画作成セミナー（オンライン）
1 月 21 日　退職共済事業事務担当者研修会（オンライン）
1 月 30 日　コミュニティに根ざした福祉人材養成セミナー（オンライン）
2 月　1 日　求人広告セミナー（オンライン）
2 月　5 日　社会保険事務担当者研修会
3 月 11 日　社会福祉法人経営者セミナー（オンライン）

（８）奨学生について

新規　　なし

対象職員の退職　１名

（９）地域との関わり

6 月 14 日　令和 2 年度事業会議（別府地区公民館）
7 月 25 日　学習・食事支援活動（宮脇地区公民館）
8 月 8 日　学習・食事支援活動（上別府地区公民館）
8 月 22 日　学習・食事支援活動（郡地区公民館）
9 月 19 日　学習・食事支援活動（頴娃保健センター）
10 月 17 日　学習・食事支援活動（頴娃保健センター）
11 月 21 日　学習・食事支援活動（頴娃保健センター）
1 月 16 日　学習・食事支援活動（粟ヶ窪地区公民館）
2 月 19 日　学習・食事支援活動（頴娃保健センター）
3 月 17 日　そよ風事業次年度計画会議（別府地区公民館）
3 月 27 日　学習・食事支援活動（別府地区公民館）

(10) 求人活動

11 月 12 日　そてつ会企業説明会（ハローワーク指宿）
12 月 29 日　南九州市企業合同説明会・動画撮影
3 月 11 日　WEB 合同企業説明会（鹿児島県・鹿児島労働局主催）

障害者支援施設　竹山苑

1　重点項目における評価と課題

（方針 1）　信頼される社会福祉法人を目指そう

信頼される障害者支援施設を目指します

【評価】

(1)　身障協ｹｱｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝに基づく自己評価を委員会活動として実施。第三者による評価等は、新型コロナ感染予防対策を優先し、実施しなかった。

(2)　指宿市自立支援協議会で地域課題とされた放課後等デイサービス事業を令和 2 年 12 月から開始した。

(3)　近隣学校や地域での障害者への理解を深める活動は実施できなかった。

【課題】

いつくしみ会等を利用して外部の方と利用者が交流する場を作ったり、ご家族からの要望聞き取り等を行い、施設のあり方を見直していく必要がある。

（方針2）　経営の安定化を図ろう

持続可能な施設運営が出来る組織づくりを行います

【評価】

(1)　南薩圏域の病院や障害関係事業所との連携が精神科病院からの施設利用等に結びついた。

(2)　今年度よりリハビリ加算の申請に取り組むとともに利用者の障害支援区分見直しも進めた。また、特定処遇改善加算申請や新型コロナウイルス感染症緊急包括支援事業の他、3 種類の補助事業（ロボット等導入支援事業・オンライン面会支援事業・国土交通省自動車事故対策費補助金）に応募するなど、補助対象事業に積極的に取り組んだ。

(3)　障害児者支援についての職場外研修は、主に動画配信サービスを活用して定期的に取り組んだ。

【課題】

施設待機者数は増加しておらず、持続可能な施設運営・組織体制づくりの検討が必要である。

（方針3） 危機管理体制を確立しよう

危機管理体制を確立します

【評価】

(1) 眠りスキャンの新規導入やリフターを追加するなど、介護機器を活用したノーリフトケアの取り組みを継続したが、腰痛による職員の病欠が１名発生した。

(2) 法人内他事業所への視察研修は１回実施した。また、他の障害者支援施設とオンラインによる交流会も 1 回実施したが、継続的な仕組み迄には至っていない。

(3) 事業継続計画（ＢＣＰ）について、新型コロナ感染症対策についての検討は継続的に行なったが、地震・風水害時の検討は進まなかった。台風 10 号接近により 9 月 6 日から 3 日間停電があり、停電時の対応に課題が残った。また、地震想定訓練の時には、緊急事態における全職員の安否確認の方法が課題に挙げられた。さらに、利用者行方不明時の職員間の連絡体制も不十分であり、課題が残った。

【課題】

ICT 機器等を利用して、職員間のタイムリーな情報伝達の仕組みづくりが必要である。

２　主な実績概要

（１）サービス利用状況

事業所名	定員	令和元年度		令和２年度	
		延利用	稼働率	延利用	稼働率
入所	５０名	17,482 名	96.6%	17,746 名	97.2%
生活介護のみ	１０名	2,006 名	74.3%	1,947 名	72.4%
日中一時支援		280 名		192 名	
短期入所	６名	737 名	33.6%	613 名	28%
居宅介護		379 名		589 名	

（２）事故、ヒヤリハット

ア　事故　174 件

イ　ヒヤリハット　130 件

ウ　行政報告　2 件

（３）苦情・相談　１件（サービスに関する事項）

（４）家族等の面会

年間回数	0	1	2～5	6～11	12 以上	計
人数	18	9	14	5	5	51

（５）サークル活動

ア　継続サークル（外部講師～鹿県による新型コロナ流行警報発令中は、講師の来苑見合わせ）

①　週 1 回：書道、絵画、学習、麻雀、パソコン、音楽

②　月 1 回：スポーツ吹矢

③　月 1～2 回：エステ

※ 音楽・スポーツ吹矢・エステは、感染対策で１年間、開催せず

イ　その他

余暇レク担当にて、制作活動、脳トレ、オセロ、カラオケ等

ウ　就労活動

指宿市内にある就労支援事業所のオクラ種取作業

エ　利用者会　　8 回

オ　いつくしみ会(虐待防止委員会)　1 回（外部委員なし）

（６）ボランティア受入

ア　介護ボランティア　2 回

（介護体験　2 名）

（７）実習受入　　1 件

鹿児島女子短期大学（介護福祉士）2 名

鹿児島県社会福祉協議会（教員免許介護等体験事業）1 名

（８）研修

ア　職場内研修

4 月　動画配信　個別支援計画の重要性　13 名

5 月　理学療法士による移乗講座 ①12 名　②15 名

理学療法士によるポジショニング講座　8 名

介護技術講座　ノーリフトケア ①5 名　②8 名

動画配信　アセスメントとは　　13 名

動画配信　ストレングス技法　12 名

7 月　知的障害者事例検討会　13 名

8 月　動画配信　新型コロナウイルスと障害者支援のこれから　14 名

9 月　ストレッチ講座　①9 名　②9 名

10 月　他施設交流研修オンライン　3 名　（障害者支援施設・星空の里職員）

11 月　介護技術講座　床座りから抱えずに起こす方法　8 名

12 月　理学療法士による移乗動作・ポジショニング講座　7 名
看護師による看護講座
感染症対応ガウンテクニック嘔吐物処理法　①8 名②13 名
動画配信　新型コロナウイルスと障害者支援のこれから　10 名
2 月　看護師による看護講座
感染症対応ガウンテクニック嘔吐物処理法　①13 名②12 名
3 月　動画配信による看護講座　感染症対応ガウンテクニック　7 名

イ　職場外研修
7 月　放課後デイサービス事業所へ施設研修　1 名 3 日間
10 月　地域介護講座　県介護講座・普及センター主催　1 名
1 月　強度行動障害支援者養成研修　基礎　1 名 2 日間
会計研修 web　1 名
2 月　強度行動障害支援者養成研修　実践　1 名 2 日間
県虐待防止・権利擁護研修会ｵﾝﾗｲﾝ　1 名
3 月　南薩地域給食連絡協議会給食管理に関するﾘｽｸﾏﾈｰｼﾞﾒﾝﾄ 1 名

（9）防災対策
ア　防災訓練
4 月　防災教育
5 月　公用車事故対応訓練
6 月　風水害対策・対応訓練
7 月　夜間想定避難訓練　開聞山川分遣所に報告
8 月　行方不明捜索訓練
9 月　応急救護訓練
10 月　不審者対応訓練
11 月　昼間想定避難訓練　開聞山川分遣所参加
12 月　感染症対策訓練
1 月　感染症対策訓練
2 月　夜間想定避難訓練
3 月　本年度防災訓練反省と次年度計画

イ　消防用設備等点検
年 2 回実施（9 月、3 月）

(10) 設備管理

購入・工事

3モーターベッド1式	1	464,200円
ベッド固定型リフト	1	432,925円
パラマウント眠りスキャン	1	121,000円
パラマウント眠りスキャン	2	242,000円
台風災害復旧～本館ﾄｲﾚ天井部天窓改修	1	137,500円
レクリエーション室 トイレ設置	1	913,000円
多機能居室	1	5,071,000円

(11) 地域との関わり

7月3日　第3回指宿映画祭のオープニング会場提供。利用者のみ鑑賞。

9月5日　台風10号接近に伴い、指宿市より在宅視覚障害3名の緊急受入れの問合せがあり、会議室で受入れ態勢を整えたが利用はなかった。11月の指宿市自立支援協議会でその経緯を報告。

10月24日　つまべに太鼓による演奏会（竹山苑敷地内にて）

12月　3日　県南薩地域振興局・感染症対策現地ﾗｳﾝﾄﾞ受入れ5名による指導

※ 指宿市から打診のあった「東京2020パラリンピック」における聖火の竹山苑内でのお披露目と「かごしま国体」に係る聖火の公道リレー参加企画は開催延期で未実施となった。

(12) 受託補助事業（合計7,050千円）

ア　県障害福祉分野における新型ｺﾛﾅｳｲﾙｽ感染症緊急包括支援事業

・障害福祉ｻｰﾋﾞｽ施設･事業所等における感染対策徹底支援事業　2,479千円

・多機能型簡易居室の設置に要する費用　3,000千円

イ　鹿児島県障害福祉分野におけるロボット等導入支援事業　288千円

ウ　鹿児島県障害者支援施設におけるオンライン面会支援事業　194千円

エ　国土交通省･自動車事故対策費･在宅生活支援環境整備事業　1,089千円

相談支援事業所　ともいき

1　重点項目における評価と課題

（方針 1）　信頼される社会福祉法人を目指そう

地域における貢献に積極的に努めます

【評価】

R2.6 と R2.11 に基幹相談支援センター設置検討委員会コアメンバー会議開催あり、R4.4 の設置目標があるが、委員会の開催がなく具体的な内容は進んでいない状況である。

KGSN の活動について、上半期はコロナウイルス感染拡大防止のため、県内、圏域ともに研修会を実施できなかった。下半期は KGSN 全体研修と日本相談支援専門員協会九州ブロック WEB 研修に参加した。

【課題】

基幹相談支援センターの運営に関して方針が固まっていない状況がある。引き続き基幹相談支援センター・地域生活支援拠点設置推進に積極的に参画し、要請に応じて必要な職員を派遣できるよう努める。

KGSN では昨年度実施できなかった南薩圏域でのオンライン研修開催を目指し、圏域の相談支援のネットワーク強化、質の向上に努める。

（方針2）　経営の安定化を図ろう

相談支援の質の向上・人材育成に努めます

【評価】

質の高い支援に係る各加算の請求に努めたるとともに、基幹相談支援センターへの出向を見据え、体制加算の請求が継続できるようにしている。また、医療的ケア児等コーディネーター研修に参加するなど、相談支援の質の向上に努めた。

社会福祉士養成実習については、感染症対策に努めながら1名受け入れることができた。なお、1件はコロナウイルスの影響で中止とまった。

【課題】

3 年に 1 度の報酬改定があるため、各加算の取得に取り組む必要がある。報酬改定には、主要事項に医療的ケア児や精神障害者の地域包括ケアシステムがあげられており、実際相談があった時の受入れや実践ができるような体制を作っていく。また、意思決定支援のさらなる推進に努める。

実習生の受入れは、感染症リスクが高まる可能性があるが、人材育成の観点は重要かつ社会的使命と考え、感染対策に努めながら可能な限り受入れを行っていく。

（方針3） 危機管理体制を確立しよう

事業所間、地域ケースの危機管理体制整備に努めます

【評価】

上半期は、コロナウイルス感染拡大のため、指宿市自立支援協議会を通じて訪問や担当者会議実施等対応を関係機関で協議した。その後も感染対策のため、厚生労働省の通知による対策や ICT の活用に努めた。

台風 10 号接近時における緊急避難支援について課題が挙がり、指宿市役所危機管理課との意見交換を依頼し予定していたが、実施できなかった。この件については地域課題として、指宿市自立支援協議会全体会においても報告した。

成年後見制度活用や生活困窮者・触法障害者等の円滑な地域移行・定着対応はなかった。指宿市自立支援協議会全体会では、成年後見制度利用促進基本計画策定が協議に上がった。

【課題】

引続き厚生労働省通知に基づく感染対策の徹底や ICT の活用に努める。

災害時対応は障害福祉以外との連携も必要であり、引続き行政との連携強化を図っていく。

成年後見制度活用や生活困窮者・触法障害者等の円滑な地域移行・定着対応について、これまで実績はないが、今後も関係機関との連携や研修会への参加等努めていく。

２．主な実績概要

（１）サービス利用状況

令和元年度	令和２年度
延べ利用	延べ利用
計画　122 名 継続　295 名	計画　166 名 継続　403 名

（２）苦情・相談　　なし

（３）実習受入（社会福祉士実習）

宮崎福祉医療カレッジ(R3.1～2 月)

(R2.8～9 月の鹿児島国際大学はコロナウイルスの影響で中止)

（４）研修

ア　職場内研修

竹山苑に同じ

イ　職場外研修

8月　5日　鹿児島県相談支援従事者初任者研修ファシリテータ研修
9月 16日　第2回 鹿児島県相談支援包括化推進員研修
9月30日　令和2年度鹿児島県医療的ｹｱ児等ｺｰﾃﾞｨﾈｰﾀｰ養成研修
10月14日　指宿市相談支援部会　事例検討型GSV
11月16日　第3回 鹿児島県相談支援包括化推進員研修
11月17日　障害者虐待防止・権利擁護研修指導者養成研修
12月3～4日　令和2年度鹿児島県医療的ケア児等ｺｰﾃﾞｨﾈｰﾀｰ養成研修
12月　8日　第4回 鹿児島県相談支援包括化推進員研修
1月15日　令和2年度鹿児島県相談支援従事者専門コース別研修
1月20日　第5回 鹿児島県相談支援包括化推進員研修
2月　4日　鹿児島県相談支援従事者現任研修ファシリテータ研修
2月　5日　第6回 鹿児島県相談支援包括化推進員研修
2月26日　鹿児島県相談支援従事者現任研修ファシリテータ研修
3月　1日　相談支援従事者研修（主任）指導者養成研修
3月20日　鹿児島県相談支援ﾈｯﾄﾜｰｸ会議全体研修、NSK九州ﾌﾞﾛｯｸ研修

（5）防災対策

竹山苑に同じ

（6）設備管理

物品購入

・ノート型パソコン　1台

（7）地域との関わり

4月17日　鹿児島県相談支援ネットワーク会議　運営委員会
6月　2日　鹿児島県相談支援従事者研修新カリキュラム検討委員会
6月　3日　南薩地区障害者基幹相談支援センター設置検討会　コア会議
6月21日　日本相談支援専門員協会 西日本代表者会議
6月23日　鹿児島県相談支援ネットワーク会議　運営委員会
7月　1日　鹿児島県相談支援従事者研修企画運営会議
8月26～27日　鹿児島県相談支援従事者初任者研修（講師派遣）
8月28日　霧島市自立支援協議会専門部会・実地指導研修（講師派遣）
9月11日　南薩地域連絡協議会　事務局会議
9月25日　鹿児島県相談支援従事者初任者研修（講師派遣）
10月19～20日　鹿児島県相談支援従事者初任者研修（講師派遣）
11月　6日　指宿市地域自立支援協議会全体会･障害福祉計画策定委員会
11月11日　鹿児島県相談支援ネットワーク会議　事務局引継ぎ
11月16日　鹿児島県相談支援包括化推進員研修（講師派遣）
11月17日　南薩地区障害者基幹相談支援ｾﾝﾀｰ(仮称)設置検討に関する会議

11 月 26 日　指宿医療センター地域医療介護連携連絡会議
12 月　4 日　鹿児島県特別支援学校教育研究会 進路指導部会
12 月　7 日　鹿児島県相談支援ネットワーク会議 運営委員会
12 月　9 日　鹿児島県障害者虐待防止権利擁護研修 企画会議
12 月 16 日　屋久島町自立支援協議会全体研修会（講師派遣）
12 月 21 日　鹿児島県障害者自立支援協議会
1 月 12 日　指宿市地域自立支援協議会 全体会・障害福祉計画策定委員会
1 月 19 日　鹿児島市障害者自立支援協議会定例会南部地区定例会
1 月 25 日　南九州市地域自立支援協議会 全体会・障害福祉計画策定委員会
2 月　3 日　鹿児島県障害者虐待防止権利擁護研修（講師派遣）
2 月　5 日　鹿児島県障害者自立支援協議会
2 月 12 日　鹿児島県相談支援従事者現任研修（講師派遣）
2 月 16 日　九州地区主任相談支援専門員研修検討会議
2 月 19 日　南薩地域連絡協議会
3 月 3～4 日　鹿児島県相談支援従事者現任研修（講師派遣）

（８）その他実績等

ア　障害支援区分認定調査（36 件）
・指宿市　20 件
・南九州市　11 件
・枕崎市　5 件

イ　指宿市障害者相談支援事業受託

ウ　南九州市障害者相談支援事業受託

放課後等デイサービス　カラット

１　重点項目における評価と課題

（方針 1）　信頼される社会福祉法人を目指そう

発達段階に応じた学習・活動・遊び・楽しみを提供します

【評価】

近隣の施設や学校等へ出向き、児童の生活環境等のリサーチや情報収集を積極的に行った。

【課題】

地域の中での認知度を上げ、必要な方々の利用に繋げていけるように地域交流を図っていくことが重要である。

（方針2）　経営の安定化を図ろう

カラットの特色を活かしながら求められる施設作りを目指します

【評価】

少人数利用のメリットを活かし、安心して楽しく過ごしてもらえるように努めた。今後も、利用者の自主性を伸ばし、集団での適応能力向上に資する支援に努めていきたいと考えている。

利用者獲得にも努め、令和３年４月からは新入学児童４名の利用が確定している。

【課題】

近隣の放課後等デイサービス事業所は祝日営業をしていない。祝日における活動内容の充実を含め、家族、利用者のニーズに答えていけるように質の高いサービス提供を進めていきたいと考えている。

（方針3）　危機管理体制を確立しよう

安心・安全な居場所を提供します

【評価】

カラットで子ども同士、宿題をするようになって、家庭においても自主的に気にかけるようになったというように、子どもたちに少しずつ変化が見られている。

【課題】

障害のある子どもたちの放課後や長期休暇の居場所として、多種多様なプログラムを検討し、生活に必要な能力を養う時間と様々な年代の子どもたちと遊んだりする時間を混ぜながら、楽しく過ごしてもらえる空間づくりを考えていくことが必要。

２．主な実績概要

（１）サービス利用状況

定員	平日		土・祝日		合　計	
	延利用	稼働率	延利用	稼働率	延利用	稼働率
１０名	39 名	6%	23 名	7%	62 名	6%

（２）事故、ヒヤリハット　　なし

（３）苦情・相談　　なし

（４）ボランティア受入

3 月 10・11 日　地域ボランティア（１名）

（５）実習受入　　なし

（６）研修

ア　職場内研修

竹山苑に同じ

イ　職場外研修

11 月 27 日　光明禅寺保育園現場実習　２名

11 月 30 日　さつき園見学実習　３名

1 月 19・20 日　強度行動障害支援者養成研修　１名

（７）防災対策

竹山苑に同じ

（８）設備管理

ア　ファイナンスリース

コピー機

放課後等デイサービス支援ソフト

イ　物品購入

・業務用オゾン除菌消毒器　１台

・ノート型パソコン　１台

（９）地域との関わり　　なし

特別養護老人ホーム　涼松

1　重点項目における評価と課題

（方針 1）　信頼される社会福祉法人を目指そう

技術の向上を図り、大人から積極的に選ばれる施設を目指します

【評価】

新型コロナ感染症対策があって、通常どおりのことを行うことも困難であった。外部者の立入制限により、利用者の散髪さえも半年近く実施できない状況であった。会合も制限していたので、業務改善の話合いや実技研修をあまり実施できなかった。そうした中、令和２年度は３名の看取りを行なった。コロナ禍の影響により、面会を制限させていただくことがあった。寄り添いの制限をしたことで逆にその大切さを痛感させらた。

【課題】

身だしなみや環境づくりを定期的にチェックし改善していきたい。現行の職長ミーティングをリーダー・サブリーダーに拡大し共有化を図る。

感染症対策は続くが、本人や家族の納得できる看取り介護と両立させる必要がある。

（方針2）　経営の安定化を図ろう

収益増で経営の安定化を図り、同時に職員の所得向上を目指します

【評価】

備品の取り扱い管理について取り組み方法が上手く出来ずに修理が必要になってからの報告が多く出費が多くなってしまった。今後はできるメンテナンス・修理は職員で行うようにしていくこととする。

加算についての研修を開催予定であったが新型コロナウィルスの流行により開催することが出来なかった。

【課題】

備品の管理方法、報告方法を職員に周知することで早めの対応を徹底する必要がある。また、介護報酬の加算の内容と仕組みを職員一人ひとりが理解し、意識して取り組む必要がある。さらに、グループごとに記録用のパソコンを１台導入することで実施内容を入力しやすい環境を整える必要がある。

（方針3） 危機管理体制を確立しよう

平時においても、緊急時にも、その人らしい生活が送られる環境を作ります

【評価】

コロナウイルス感染症の流行により、生活環境は大きく変わってしまった。どのような状況下においても個々の思いに添える様な環境作りに向けた機会であると前向きに捉え取り組むべきであったが、業務手順の見直しや記録方法の統一を行うことはできなかった。

【課題】

涼松への入所や緊急時等いかなる場合でも大切にしてきた事や個人の思いにできるだけ対応するとともに、業務手順の統一により安心・安全な生活を送って頂けるよう支援を行うことが必要。

２．主な実績概要

（１）サービス利用状況

事業所名	定員	令和元年度		令和２年度	
		延利用	稼働率	延利用	稼働率
入所	５０名	15,673 名	85.7%	16,548 名	90.7%
短期入所	１０名	673 名	18.4%	573 名	15.7%

（２）事故、ヒヤリハット

ア　事故　　83 件（内　14 件　行政報告）

イ　ヒヤリハット　　76 件

（３）苦情・相談　　なし

（４）家族等の面会

年間回数	0	1	2～5	6～11	12 以上	計
人数	25	13	17	4	3	62

（５）サークル活動　　なし

（６）ボランティア受入　　なし

（７）実習受入　　なし

（８）研修

ア　職場内研修

４月	コンプライアンス	５月	食中毒
６月	身体拘束	７月	褥瘡
８月	医療的処置	９月	人生会議
10 月	感染症	11 月	事故防止
12 月	身体拘束	１月	認知症
２月	緊急時対応	３月	権利擁護

イ　職場外研修（全てオンラインによる）

９月　新型コロナウィルス感染拡大防止対策研修　全職員対象

１月　本人の意向を尊重した意思決定の為の相談員研修会

２月　感染防止対策の基礎知識、新型コロナウィルス感染対策について

３月　鹿児島県栄養士研修会

（９）防災対策

ア　防災訓練

月	種類	外部協力
４	防災教育	なし
５	避難訓練（昼間想定）	※指宿南九州消防組合
６	普通救命講習（感染対策のため未実施）	―
７	風水害対策	なし
８	不審者対応	※南九州警察署
９	非常事態呼集訓練	なし
１０	地域合同総合防災訓練（夜間想定）	※指宿南九州消防組合 ※岡村地域自衛消防隊
１１	非常災害対応机上訓練	なし
２	避難訓練（夜間想定）	※指宿南九州消防組合
３	今年度の反省 来年度の計画	なし

※：通報のみ

イ　消防用設備等点検

・消防設備自主点検　：毎月１回

・設備業者による点検：年２回（4 月、10 月）

（10）設備管理

購入・工事

・車椅子仕様軽自動車（タントスローパー）　1,505,989 円
・厨房用食器棚　143,000 円
・エアコン（家族室）　132,440 円
・空調機移設・撤去工事　306,900 円
・屋根補修工事　305,000 円
・厨房床補修工事　123,000 円
・井水ポンプ給水管切替工事　104,500 円

⑪地域との関わり

５月 21 日	そよ風事業　別府小学校との協働会議
６月 15 日	そよ風事業　施設見学動画撮影 ⇒小学校へ動画提出
７月 ６日	そよ風事業　子どもたちからの質問提出
13 日	そよ風事業　障害者や高齢者を理解する福祉の授業 （オンライン授業）
８月 夏休み	そよ風事業　ポスター・標語の作成
９月 ４日	そよ風事業　ポスター・標語審査
10 月 ２日	そよ風事業　ポスター・標語表彰
11 月 ６日	そよ風事業　誘導模擬訓練　※中止
12 月 ７日	そよ風事業　別府小６年生からの交流動画提出

通所介護事業所　岡村さん家

1　重点項目における評価と課題

（方針 1）　信頼される社会福祉法人を目指そう

そてつ会の理念に誇りを持って介護支援を目指します

【評価】

(1) 職員会議内において新型コロナウイルス対策について内部研修を行った。感染対策については、その都度職員で確認し合いながら対策を考えて実施していくということを重点的に行った。

(2) 新型コロナウイルス感染症対策のためサロン活動は実施できず、地域の方との交流をすることが困難であったが、情報交換等を行うことはできた。

【課題】

(1) 外部研修に参加することが難しい状況であるが、オンライン等で参加できるものに参加し、その内容について職員で共有し、喜びを感じあえるケアに繋げていきたい。

(2) 岡村さん家の様子・日常の風景を周りの方々に発信し、アピールする方法を検討していきたい。

（方針2）　経営の安定化を図ろう

利用者の立場を尊重し、良質かつ適切な福祉サービス提供します

【評価】

(1) ケアマネジャーと情報共有しながら、利用回数を増やすなど安心・安全な生活が維持できるよう取り組んでいる。

(2) 連絡帳や送迎時、または電話にて家族と連絡を取り合い、依頼や意見等に対してできる限り速やかに対応できるよう心掛けている。

【課題】

(1) 今後も状況報告漏れ等がないように、職員間で情報交換を密に行っていく。

(2) 今後も家族が依頼や意見等を伝えやすい環境づくりに努めていく。

（方針3） 危機管理体制を確立しよう

身の回りに潜む危険を可能な限り排除します

【評価】

(1) 送迎時は安全運転に心がけ、乗車前の検温・手指消毒も継続し、37.5度以上の方には休んでもらっている。また、デイサービス利用中に熱発となった場合は家族へ連絡し、帰宅という形をとっている。さらに、寝具類の交換・消毒、パーテーションの活用により感染症対策を徹底している。

(2) 防災訓練については、分遣所職員による実演、講和のほか、利用者の方にも実際に消火訓練を体験していただいた。その他、地震想定の訓練も行った。

【課題】

(1) 今後も気を緩めることなく、健康観察・環境整備に努めていく。

(2) 避難訓練が同じ曜日に偏らないように、できるだけ多くの利用者が参加できるように計画していく。

２．主な実績概要

（１）サービス利用状況

事業所名	定員	令和元年度		令和２年度	
		延利用	稼働率	延利用	稼働率
岡村さん家 通所介護	１５名	3,295名	70.4%	2,945名	62.9%

（２）事故、ヒヤリハット

ア　事故　　0件

イ　ヒヤリハット　　12件

（３）苦情・相談　　1件（利用者家族から）

（４）ボランティア受入　　なし

（５）実習受入　　なし

（６）研修

ア　職場内研修

5 月　コロナウイルスについて

7 月　コロナウイルスについて

12 月　コロナウイルスについて

2 月　コロナウイルスについて

3 月　コロナウイルスについて

イ　職場外研修

10 月 7 日　令和 2 年度地域別他職種連携合同研修会

10 月 20 日　通所介護計画書の作成と自立支援の考え方

1 月 20 日～21 日　令和 2 年度第 2 回甲種防火管理者新規講習会

2 月 9 日　令和 2 年度通所部会オンライン会議

（７）防災対策

ア　防災訓練

6 月 15 日　火災想定避難訓練・消火器取扱訓練

2 月 15 日　地震想定避難訓練

イ　消防用設備等点検

4 月 8 日実施

（８）設備管理

購入・工事

・避難口誘導灯取替工事

・台風 10 号被害復旧補修工事

・屋外手すり取付工事

（９）地域との関わり

Ａコープ移動販売の付き添い・介助、見学を行い地域住民と交流した。

3 月 17 日　そよ風事業次年度計画会議

岡村さん家居宅介護支援事業所

1　重点項目における評価と課題

（方針 1）　信頼される社会福祉法人を目指そう

居宅介護支援事業所の信頼度が向上するようにしていきます

【評価】

南九州市・指宿市役所介護保険担当部署や地域包括支援センター、医療機関・サービス事業所等と利用者支援に関する情報交換を行った。また、地域の方からの電話・来訪による相談・問合せに丁寧に対応し、説明等を行った。

利用者・家族へ満足度調査アンケートを令和３年１月に実施し、集計結果を送付した。

【課題】

今後も各市関係部署や医療機関・サービス事業所との連携を図るとともに、地域住民からの相談等へのこまめな対応を行い、満足度調査アンケートを継続して信頼度向上に努めることが必要と考えている。

（方針2）　経営の安定化を図ろう

居宅介護支援事業所の経営が安定するようにしていきます

【評価】

日常業務で地域包括支援センター・医療機関と連絡・情報交換を行い、良好な関係が維持出来ている。地域包括支援センターからの紹介のほか、当事業所・デイサービス岡村さん家への直接の新規利用依頼もある。

研修等については、介護支援専門員更新研修受講や南九州市主催の各種会議への参加し、情報収集及び自己研鑽に努めた。

【課題】

今後も関係機関との良好な関係維持し、経営の安定に努める必要がある。

（方針3）　危機管理体制を確立しよう

災害発生時に利用者様の安全が確保できるようにしていきます

【評価】

訪問時に利用者・家族と緊急時連絡先の再確認や災害時の避難場所、避難方法、避難協力者の確認を行った。

【課題】

今後も上記内容の定期的な確認・変更、必要時の見直しが必要である。

２．主な実績概要

（１）サービス利用状況

定員	令和元年度	令和２年度
	延利用	延利用
３５名	356 名（予防　49 名）	350 名（予防　69 名）

（２）苦情・相談　　なし

（３）実習受入　　なし

（４）研修

ア　職場内研修　　なし

イ　職場外研修

8 月 25 日～26 日　介護支援専門員専門研修Ⅱ
8 月 27 日　南九州市介護保険運営協議会
9 月 14 日～16 日　介護支援専門員専門研修Ⅱ
10 月 30 日　南九州市いのちを支える自殺対策推進協議会
11 月 10 日　南九州市介護保険運営協議会
11 月 19 日　南九州市居宅専門部会・研修会
12 月 12 日　介護支援専門員協議会南薩支部第 1 回研修会
1 月 27 日　南九州市介護保険運営協議会
2 月 12 日　南九州市地域ケア個別会議
2 月 26 日　南九州市介護保険運営協議会
3 月 18 日　南九州市地域ケア会議

（５）地域との関わり

3 月 17 日　そよ風事業次年度計画会議